

あすみっ子・大椎っ子田んぼ2011 脱穀・もみすい編 一子どもたちの感想からー

谷津田から持ち帰った稲を学校で干したあと、最終行程の脱穀作業をしました。稲刈りをしたら終わりと思っていた子どもも多く、昔ながらの足踏み脱穀機や千歯こき、唐箕(とうみ)による脱穀を体験し、その大変さを実感したようです。作業前には金谷さんから、稲は稲自身が他の生き物に助けられて成長していくため、人間は「田んぼ」という環境を作るんだというお話をいただきました。また、脱穀前の稲が藁(わら)と変わっていくまでに使われるの漢字や、脱穀についてのお話などたくさんの智恵を教えてくださいました。目を輝かせて話を聞いたり、脱穀体験をしたりした子どもたちの感想です。

☆あすみっ子田んぼ

*小さい千歯こきをやったらしせいをとるのがむずかしかった。とうみのごみの出口をみたら風のいきおいでごみがすごくとんでた。足踏み脱穀機をやっているとき、もみの音がすごくて。もみすり機のもみからの出口をみたらほこりがとんでた。(Y・A)

*足踏み脱穀機をつかっていたら、じょうすとはめられて、うれしかった。米をばくばくたべていたら、まえにこんでいたやつがあまかった。50回かんだら、あまかった。(K・T)

*足踏み脱穀機はすごい速さでほがとれてびっくりしました。千歯こきは思ったよりむずかしくて大変でした。もみすり機はすぐにもみがとれて玄米になってすごくおもしろいと思いました。でも、上からホコリが出てきてあぶないと思いました。(M・M)

*足踏み脱穀機は、ペダルが重いし、稲を強く持たないとどんな稲がひきずられていたので、やりづらかったです。とうみは、もみ、ゴミ(草)などが出てくる。強い風でもみとゴミをわけられるのがすごかったです。(T・M)

*足踏み脱穀機はみためはかんたんそうにみえたけど、やってみるといがいにむずかしかったけど、リズムよくできたのでよかったです。とうみは、いたについているハンドルで風をつくりまわす。ハンドルをまわしてみたらよかったです。(Y・S)

*私は足踏み脱穀機をやった千歯こきで仕上げをやりました。足踏み脱穀機ではかんかくをつかむのがむずかしかったです。千歯こきは歯がとんがってケガをしないか不安でした。だけど、ケガをしなくてよかったです。(A・I)

*千歯こきは足踏み脱穀機よりもとてもたいへんだったしうまくもみをとれなかったけど昔の人はあれを使っているすごいと思った。もみからげんまいにするとときはきかいを使ったけど昔の人はどうやってげんまいにしたのだろう。(Y・T)

*だっこきで米をだっこして、白米にして食べるということがわかってよかった。玄米は白米よりもえいようがあるということがわかってびっくりした。白米のほうがえいようがあると思っていたので、びっくりした。(M・T)

*私は初めてだっこきともみすりをやりました。さいしょはこ

わかったけれど、お手つだいの人達がやさしくおしえてくれたので、できました。とてもたのしかったです。(A・A)

*脱穀などをする道具は様々な工夫がされていて、すごかった。しょう来、脱穀するためにもっと便利な道具を開発したい。(Y・K)

*私は思っていたよりもみすりがいへんだなあと思いました。もみすりをした米を食べてみたく私はあまり「あまい」と思いませんでした。でもすごくてたのしかったです。(T・N)

*最初千歯こきを見たときは、すごく歯の先がとがっていてあぶないきかいたと思ったけど、やってみたらたくさんもみがとれたのですごいと思いました。でも少し力がある仕事だと思いました。足踏み脱穀機は足でペダルのようなものをふみながら稲のほをすりおろすのがむずかしかったです。またやってみてほしいです。(S・Y)

*全部のものが、同じリズムで、回したり、ふんだりしなきゃいけないし、脱穀、もみすりに使う道具は、いろいろ考えられていて、すごいと思いました。初めはかるくしなきゃいけないなどもあり、農家の人は、すごいし、大変だと思ったし、ほこりと玄米を分けたりするきかいもあり、いっぱい考えられていると思った。(M・K)

*さいしょはちょっときんちょうしたけど、たのしかった。もみすり機はとってもかんたんにげんまいにできてすごかった。げんまい、おいしかったです。(M・S)

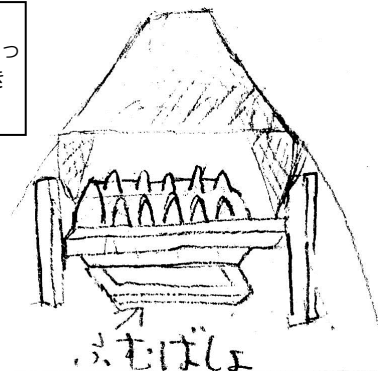
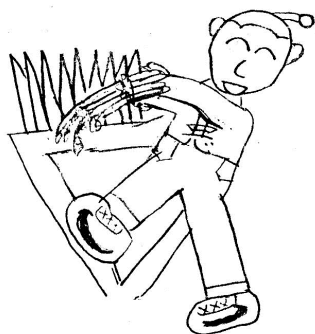
*昔の機械がつかえてよかったです。千歯こきは昔の人が何回も試してできたものだよかった。足踏み脱穀機はふむタイミングがむずかしかった。もみすり機はすぐに玄米になってすごいと思った。(H・N)

*だっこきは足踏み脱穀機を使いました。手が引きこまれそうでした。でも、うまくできてよかったです。手と足を同じ時にやるのがたいへんでした。(K・Y)

*稲のくきの中が空どうなっていて外国ではストローとよばれている。病気になりにくい方法は、その季節にあった食べものを食べると、なりにくい。昔の人は、お米とみそしるを食べれば健康で長生きしていた。(S・O)

千歯こき

体重を思いっきりかけてやります。最初は、ほがいっぱいあるので上のほうをやっただんだん下げていきます。(T・T)

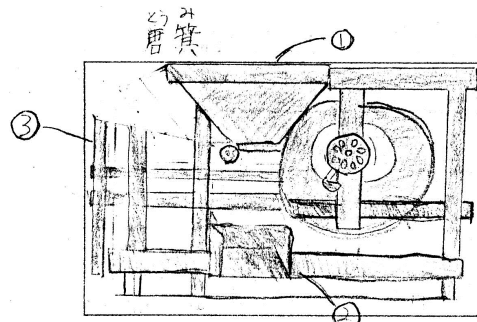


足踏み脱穀機

稲や麦のほを取るきかい。とんがっているところに稲や麦をおいて足でふみながらまわして稲のほを取る道具 (H・I)

唐箕

中国で発明された機械で、①の部分からもみを入れ、②から中が入ったもみが出て、②の後ろ側から中が入っていないもみが出てきて、小さい葉などは、③から出てくる。(A・K)



☆大椎っ子田んぼ

★春からずっと米作りをしてきて、ひとつぶひとつぶのお米の大切さと農家の人たちへの感謝の気持ちについて学びました。とても楽しかったし、いろいろな体験ができたのでよかったと思います。(S.Y)

★今日は、金谷さんからいろいろなことを教えていただきました。特に、田に関する漢字のことについて、たくさん教えてくださいました。私は、田に関する漢字は、難しい漢字がたくさんあるんだと思いました。脱穀を初めてやってみて、危険な道具があるから、最初はすこし緊張しました。でも、だんだんやっているうちに楽しくなってきた、またやりたいなと思いました。(K.T)

★毎日食べていたお米が、こんなに大変な作業をして作られていたなんて、びっくりしました。一つぶ一つぶを大切に思いました。(A.O)

★ぼくたちか、いつも食べている米の一つぶ一つぶはこんな大変な作業で、できていることがわかりました。作った人に感謝して毎日食べようと思いました。(K・M)

★ぼくは脱穀をする作業や、もみやもみじゃない物に分けることに使うとうみなどを見たりしました。脱穀をする時には足ぶみ脱穀機や千歯こきを使いました。ちょっと難しかったけど、お母さんやお父さん方も手伝ってくれたのでうまくできました。(S.A)

★ぼくは今日、脱穀をしました、最初は粃とわらくすとを分ける作業をし、次は脱穀、最後に、もみすりを見学しました。粃とを分ける作業では、落ちていたわらをはきました。脱穀では、自分がケガをするかどうかひやひやし、めちゃめちゃ緊張しました。脱穀するのに足ぶみ脱穀機と千歯こきがありました。僕は足ぶみ脱穀機でやりました。やる前は、緊張したけど、やり終わったら、楽しかった～と思いました。もみすりのところは、見学している時、目にゴミがたくさんはいて痛かったです。米をつくるたいへんさがよくわかりました。(S・K)

★ぼくたち人間の命は、米一つぶの命と同じです。なので、人間は自分たちで生きていくと思わないでほしいです。(M.C)

★千歯こきを使って脱穀をした。千歯こきは、先が山のようになっていて、足で千歯こきをおさえて、穂先を歯にあてて、びっくりかえして粃をとる。歯の角度や、材質はなにがいいかなど、ためされてきたという話も金谷さんがしてくれた。(R.S)

★ぼくは米を育てみて、大変だったけど楽しかったし、いろいろ学びました。YPPの人や金谷さんにいろいろな事やおそわったおかげでけがをしなくて楽しめました。米を作っている人に感謝して、お米を一つぶも残さないで食べたいです。(I.K)

★私は、最初難しいのかなと思いました、みんな協力して楽しくできてよかったです。これからも、米の一つぶ一つぶを大切に食べていきたいです。(K.Y)

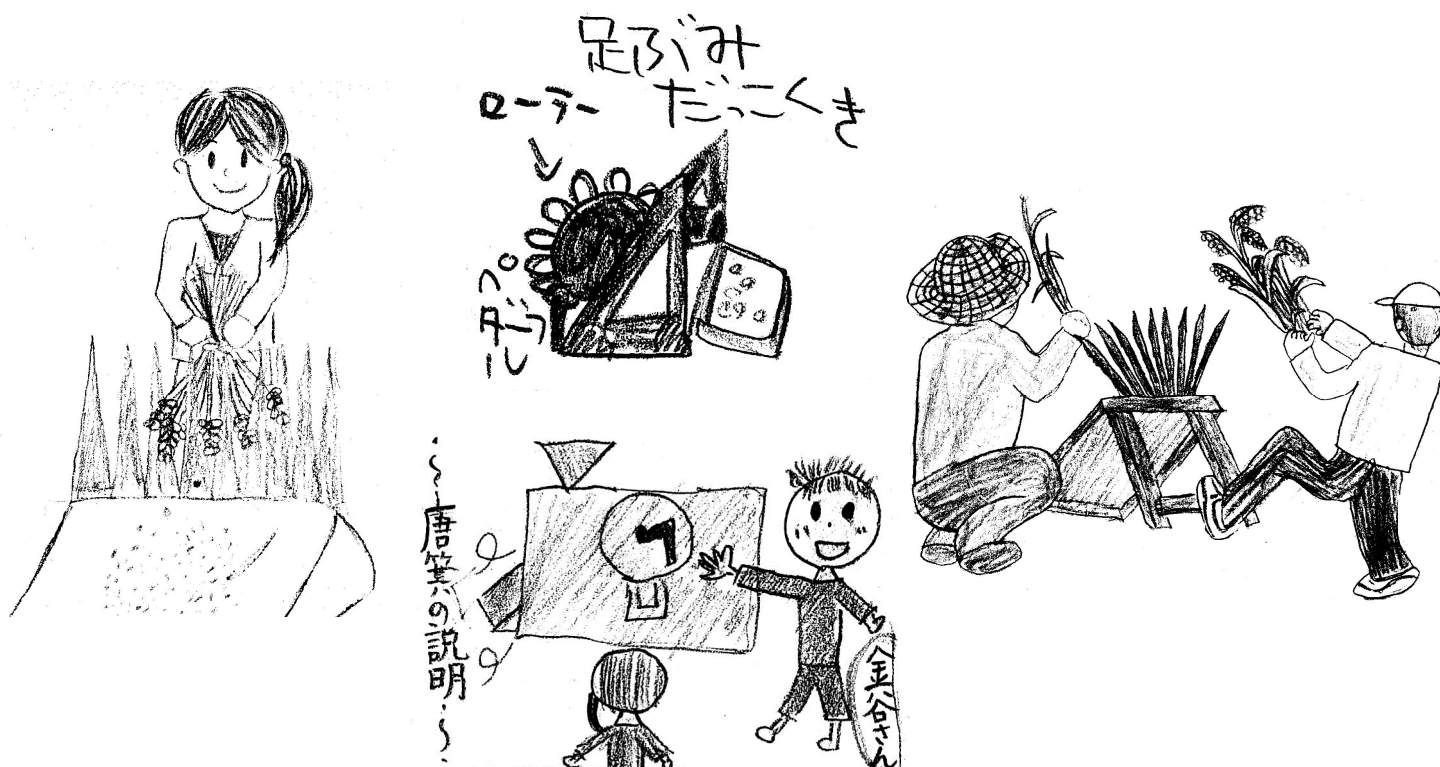
★いつも食べている白米が、こんなに手間をかけて作られているなんてすごいな～とあらためて知りました。脱穀作業で1番楽しかったのは、足踏み脱穀機です。また、農作業を楽しんでいるという金谷さんの話を聞いて、ほくも楽しんでできる仕事をしようと思いました。(S.S)

★私は脱穀をするのは初めてだったので、とてもワクワクしました。金谷さんから足踏み脱穀機や千歯こきの使い方を教えてもらいました。私は、足踏み脱穀機の方がおもしろそうだったので、足踏み脱穀機で脱穀しました。とても早く脱穀できたのでびっくりしました。稲にはまだ粃が少し残っていたので、手でとりました。大変な作業だったけど、とても楽しかったです。あらためて、米一つぶ一つぶが大切だと思いました。(M.F)

★今日、脱穀をして学んだことがたくさんありました。まずおどろいたことは、お米を乾燥させる天日干しが農家によって違うということです。昔の人々の考え方や工夫の仕方が違うということがわかりました。「唐箕」という粃を風選する機械の工夫にもおどろきました。上からわらくすが混ざった粃を入れると、風の力で1番重い粃、やや重い粃、そして軽いわらが3つの出口から出てきます。唐箕についている風車を回すリズムもあるそうで、プロでも大変だと金谷さんは話していました。唐箕は江戸時代ごろから日本にあって、改良してきたそうです。私は日本人の智慧にびっくりしました。その他にも足踏み脱穀機や千歯こき、粃すり機など、すばらしい機械がありました。また、お米一つぶ一つぶが大切な命だということも知りました。これからは必ず一つぶも残さないようにしたいです。とても楽しかったです。(M.T)

★私が1番心に残ったことは千歯こきで脱穀したこと。昔の人達がいろいろさざし、1番よかった形が今でも使われているこの形だそうです。歯の角度や形まで、粃をとりやすいように計算されていることにおどろきました。谷津田での学習で米作りの大変さや、命をいただき食べていることなどがよくわかったので、これから作ってくれた方々や米の命一つぶ一つぶに感謝して食べようと思います。(N.M)

★ぼくは稲についている粃を手でとることが楽しかったです。米を作ることがこんなに手間のかかることだとあらためてわかりました。これから米を食べる時はこの大変さを思い出し、心をこめていただきますと言いたいです。脱穀するのに千歯こきのような機械をつかうことも初めて知りました。早く米を食べたい！(N.R)





里山たんけんレポート

第141回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2011年10月2日(日) くもり

稲刈りの終わった田んぼの中はイボクサ、ヤナギタデ、キクモ、オモダカなどの水田雑草の花が目立ちました。キバナアキギリも満開でいつものことですが、ハナバチが蜜をなめに花に入ると雄しべが降りてきてハチの背中に花粉をつける仕組みを試して楽しみました。谷津を埋めるアシ、マコモ、オギなども一斉に花をつけました。セイタカアワダチソウはまだ開花していません。全般に花が遅いようです。例年10月の観察会はクワリ拾いが楽しみですが今年は不作のようで実をつけている樹が少なく、みんなが楽しむほどは拾えなくて残念でした。斜面林下の土水路からはシジミの幼貝が見つかりました。

赤とんぼの調査を予定していましたが曇り空で気温も低くトンボはほとんど姿を見せず、ノシメトンボ、翅の端に褐色斑のあるマユタテアカネ♀、ウスバキトンボ、オニヤンマ、が捕らえられた程度でした。今日は9月17日に刈った稲の脱穀の日で観察会と同時並行で実施しました。

午後から希望者は脱穀作業を手伝ったり、見学したりしました。

(参加者 大人9名、高校生4名、子ども4名； 報告：網代春男)

第126回 下大和田 YPP「古代米の稲刈り」

2011年10月29日(土) 晴れ

日差しがちょっと強く感じるくらいの好天に恵まれた中、緑米と赤米の稲刈りをしました。

緑米はしっかりと分けつして、とても太い株に育っていたので、2株も刈ると手がいっぱいになるほどでした。背丈が大きくても倒れない強さは緑米ならではの強さです。今回参加された方はみなさん稲刈りの経験者ばかりだったので、サクッ、サクッと最初から軽やかな音で太い株をどんどん刈り進んでいきます。「稲刈りは50年ぶりです」とおっしゃる初参加の女性の方もブランクを全然感じさせない見事な鎌さばきで驚きでした。赤米の方は緑米とは対照的に弱々しく、だいぶ倒れていたのでも緑米のようにリズムカルに刈ることはできずちょっと難儀しましたが、予定どおり刈り終えることができました。よく育った緑米の量がとても多くて、コシヒカリ田んぼの周りをぐるっと囲むオダがいっぱいになりました。

これで下大和田の稲刈りはすべて終わりました。ホッとひと安心です。あとは脱穀を残すのみ。もうひと息ですね。

(参加者：大人15名、小学生5名、幼児1名；報告：高山邦明)



みなさん、お疲れさまでした(撮影：田中正彦)

第70回 小山町 YPP「コシヒカリの稲刈り」

2011年10月1日(土) 晴れ

今回、千葉市緑区子どもサポートセンターの親子連れの皆さんが大勢参加し、とてもにぎやかな稲刈りになりました。大人も子どもも稲刈りははじめての方がほとんどでしたので、最初に稲の刈り方を教わりました。間違えるとケガをしてしまうので、子どもたちは真剣に耳を傾けていました。泥深い田んぼなので、稲刈りをはじめる前に田んぼの中を歩く練習からスタート。最初は長靴が抜くのがひと苦労ですが、だんだんと要領を覚えていきました。慣れたところで鎌を持って刈り始めます。最初はなかなかうまく刈れませんでした。親御さんに手伝ってもらいながらどんどん上手に刈れるようになりました。

子どもが大勢なのでなかなか進まないかな、と思ったのですが、子どもたちも親御さんもとてもがんばってくれたお陰で、予定よりもたくさん刈ることができました。

(参加者：子どもサポートセンター大人14名+子ども13名、

その他：大人7名、小学生2名、幼児1名；報告：高山邦明)



秋と言えば赤とんぼの季節。田んぼにまだ稲がある時は、左の写真のナツアカネをよく見かけます。顔まで真っ赤な姿がとても印象的です。ナツアカネは空中から産卵するので稲があっても平気です。そして、稲刈りが終わる頃に姿を見せるのが右のアキアカネ。夏を高地で過ごして田んぼに帰ってきたアキアカネは水にっぽを打ちつけて産卵するので、稲刈りが終わった田んぼでないと生むことができません。よく似たトンボなのに習性が違うのが不思議ですね。

(高山邦明)



<谷津田・季節のたより>

小山町

- 10月 9日 マユタテアカネが田んぼで産卵。マイコアカネやナツアカネも田んぼに来ていた（高山）。
10月15日 セイタカアワダチソウが咲く。田んぼに全身真っ赤なナツアカネがたくさんいた（高山）。
10月19日 小学校田んぼの中で、落穂から芽が出て十センチほどに育っていた。小さな苗代が所々に（金谷）。
10月30日 斜面林の縁からアオジの地鳴きが聞こえてくる。ジョウビタキの声もした（高山）。

下大和田

- 10月 2日 ミンミンゼミがとてもゆっくりとした声で鳴く（高山）。
10月23日 畦豆の葉が黄色くなってきた（金谷）。
10月27日 朝方、厳しい冷え込み。イナゴもザリガニも寒さで動きが鈍く、イナゴの洗顔はとてもゆっくりだった（金谷）。
10月29日 あし原のあちこちからアオジのチッ、チッという地鳴きが聞こえてきた（高山）。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPP のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先（いずれも）：ちば環境情報センター（TEL&FAX：043-223-7807 E-mail：hello@ceic.info/）

ご注意：・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第127回 下大和田 YPP「古代米の脱穀」

今年の田んぼでの最後の作業、古代米（緑米・赤米）の脱穀です。緑米は収穫祭でもちつきに使うお米です。さて、どれくらいとれたのでしょうか？ お楽しみに！

日 時： 2011年11月12日（土） 10:00～14:00 小雨決行

*稲の乾燥具合によって当日の天気が良くても脱穀できない場合があります。中止の場合は前日までにちば環境情報センターあるいはちば・谷津田フォーラムのホームページでお知らせします。

場 所： 千葉市緑区下大和田谷津田（ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。）

集 合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に 10:00（JR 千葉駅 10 番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで 45 分<千葉駅発 8:53、9:08、9:23 など> 料金は 520 円）

持ち物： 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物など

参加費（資料代等）： ちば環境情報センター会員および家族 100 円、一般 300 円、小学生未満無料

主 催： ちば環境情報センター 共 催： ちば・谷津田フォーラム

▼第143回 下大和田 12月の谷津田観察会とごみ拾い

生鳥の声が聞けるようになってきました。生きものの冬越しを探しながら谷津をめぐります。

日 時： 2011年12月4日（日）観察 10～12 時 午後は田んぼの作業など自由活動 *小雨決行

場 所： 千葉市緑区下大和田谷津田（下大和田 YPP に同じ）

集 合： 下大和田 YPP に同じ

持ち物： 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費： 100 円（小学生以上、資料代など）

主 催： ちば・谷津田フォーラム 共 催： ちば環境情報センター

▼第72回 小山町 YPP「古代米の脱穀」

昔ながらの足踏み式脱穀機を使って古代米の脱穀をします。ガーコン、ガーコンと谷津に音を響かせて、大人も子どももみんなで楽しく作業をしましょう。稲の乾き具合で脱穀ができない場合は、倉庫の整理や自然観察をします。

日 時： 2011年11月20日（日）10:00～12:30 *小雨決行

場 所： 千葉市緑区小山町 リンドウ広場（ご連絡いただければ地図をお送りします）

持ち物： 飲み物、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、

参加費： 100 円（小学生以上、資料代など）

主 催： ちば環境情報センター

編集後記 TPP（環太平洋パートナーシップ）が新聞をにぎわせています。アメリカを含むいくつかの国で関税をなくして自由に貿易ができるようにしようというこの協定の是非をめぐって、食糧自給率はどうするか！ 農業をつぶすのか！ 一方で、農業を甘やかすのか！ 国益を考えろ！ など、様々な議論がされています。その中で抜けていると思うのが、環境保全や日本の文化とのつながりといった農業の多面的な機能のことです。農業は産業の一つであると共にいろいろな働きを持って日本を支えてきたことを、ぜひ皆さんで考えて欲しいと願います。

（高山 邦明）